

Cisco IOS XR および Cisco IOS ルータの MTU の動作

目次

[概要](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[Cisco IOS と Cisco IOS XR ソフトウェアの比較](#)

[ルーテッド L3 インターフェイス](#)

[デフォルト MTU](#)

[非デフォルト MTU](#)

[ルーテッド L3 サブインターフェイス](#)

[L2VPN L2 インターフェイス](#)

[EVC \(ASR9000 \)](#)

[非 EVC \(XR 12000 および CRS \)](#)

[自動イーサネット インターフェイス ドライバ MTU および MRU の設定](#)

[リリース 5.1.1 よりも前のリリースからリリース 5.1.1 以降にアップグレードする際の設定の変換](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco IOS® XR ルータの最大伝送ユニット (MTU) の動作について説明し、Cisco IOS ルータとその動作を比較します。また、Ethernet Virtual Connection (EVC) と非 EVC モデルの両方を使用するルーテッドレイヤ 3 (L3) インターフェイスおよびレイヤ 2 VPN (L2VPN) L2 インターフェイスの MTU についても説明します。このドキュメントでは、イーサネット インターフェイス ドライバ MTU および最大受信ユニット (MRU) がどのようにリリース 5.1.1 以降で自動的に設定されるかについての重要な変更点についても説明します。

背景説明

コンピュータ ネットワークでは、レイヤの通信プロトコルの MTU によって 1 つのインターフェイスでレイヤが送信できる最大プロトコル データ ユニットのサイズがバイト単位で定義されます。各インターフェイス、レイヤおよびプロトコルに MTU パラメータが 1 つ関連付けられます。

Cisco IOS XR ソフトウェアの MTU の特性は次のとおりです。

- MTU config および show コマンドには、L2 および L3 において、対応するレイヤのヘッダーサイズが含まれています。たとえば、L2 MTU を設定する mtu コマンドには、イーサネット インターフェイス (dot1q なし) の場合は 14 バイトが含まれており、Point-to-Point Protocol (PPP) またはハイレベル データ リンク制御 (HDLC) の場合は 4 バイトが含まれています。ipv4 mtu コマンドには、IPv4 ヘッダーの 20 バイトが含まれています。

- 上位層の MTU は、下位の層のペイロード内に収まる必要があります。たとえば、非 dot1q イーサネット インターフェイスのインターフェイス MTU がデフォルトの 1514 バイトの場合、マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) などの上位層のプロトコルはそのインターフェイス上で最大 1500 バイトの MTU を持つことができます。これは、イーサネット フレーム内に 1500 バイトの MPLS フレーム (ラベルを含む) しか収めることができないことを意味します。1500 バイトの IPv4 パケットの先頭に 2 つの MPLS タグを割り当てる場合は、そのインターフェイスで 1508 バイトの MPLS MTU を設定することはできません。イーサネット インターフェイスで 1508 バイトの MPLS フレームを送信するためには、インターフェイス MTU を 1522 またはそれ以上の値に増やす必要があります。そうすることで、L2 インターフェイスのペイロードが MPLS フレームを伝送するのに十分な大きさになります。
- 従来の Cisco IOS ソフトウェア (Cisco IOS XR ソフトウェアではない) では、interface mtu コマンドによって L2 ペイロード サイズが設定されますが、L2 ヘッダーは含まれません。これは、interface mtu コマンドに L2 および L3 両方のオーバーヘッドを含む Cisco IOS XR ソフトウェアとは異なります。ipv4 mtu コマンドの場合のように、L3 MTU コマンドでは L3 ヘッダーを含むそのプロトコルの最大パケット サイズが設定されます。これは Cisco IOS XR ソフトウェアの場合と同様です。
- Cisco IOS XR ソフトウェアのデフォルトのインターフェイス MTU は、1500 バイトの L3 パケットの伝送を可能にする必要があります。したがってデフォルトの MTU は、メインのイーサネット インターフェイスの場合は 1514 バイトで、シリアル インターフェイスの場合は 1504 バイトです。

このドキュメントの以降の部分では、MTU の特性を記述し、Cisco IOS ソフトウェアと Cisco IOS XR ソフトウェアの動作を比較し、これらのタイプのインターフェイスの例を示します。

- ルーテッド L3 インターフェイス
- ルーテッド L3 サブインターフェイス
- L2VPN L2 インターフェイス

設定

注: このセクションで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#) ([登録ユーザ専用](#)) を使用してください。

注: 特定の show コマンドが [アウトプット インタープリタ ツール](#) ([登録ユーザ専用](#)) でサポートされています。show コマンド出力の分析を表示するには、アウトプット インタープリタ ツールを使用します。

Cisco IOS と Cisco IOS XR ソフトウェアの比較

ここでは、MTU の特性に関連して Cisco IOS ソフトウェアと Cisco IOS XR ソフトウェアの動作を比較します。

Cisco IOS ソフトウェアでは、mtu コマンドと対応する show コマンドには L2 ヘッダーは含まれ

ていません。L2 ペイロードを L3 ヘッダーを含む L3 パケットの最大サイズに設定するには、`mtu` コマンドを使用します。

これは、`mtu` コマンドに L2 ヘッダーが含まれる (イーサネット用に 14 バイトまたは PPP/HDLC 用に 4 バイト) Cisco IOS XR ソフトウェアとは異なっています。

Cisco IOS ルータが `mtu x` で設定され、Cisco IOS XR ルータに接続されている場合、Cisco IOS XR ルータ上の対応するインターフェイスは、イーサネット インターフェイスの場合は `mtu x+14`、シリアル インターフェイスの場合は `mtu x+4` で設定する必要があります。

Cisco IOS および Cisco IOS XR ソフトウェアでは、`ipv4 mtu`、`ipv6 mtu` および `mpls mtu` コマンドの意味は同じです。これらは同じ値で設定する必要があります。

その結果、次がイーサネット インターフェイスでの Cisco IOS ソフトウェアの設定となります。

```
mtu 9012
ipv4 mtu 9000
ipv6 mtu 9000
```

Cisco IOS XR ソフトウェア ネイバーでの対応する設定は次のとおりです。

```
mtu 9026
ipv4 mtu 9000
ipv6 mtu 9000
```

ルーテッド L3 インターフェイス

MTU 値は、L2 ネットワークに接続されているすべてのデバイスで同じにする必要があります。同じでない場合、次の症状が報告される可能性があります。

- Intermediate System-to-Intermediate System (IS-IS) の隣接関係が確立されない。デフォルトでは、IS-IS は hello-padding を使用します。したがって、1 台のルータに他のルータの値よりも低い値がある場合、hello が giant と見なされ、廃棄される場合があります。
- 大量の Database Descriptor (DBD) パケットが giant と見なされ廃棄される可能性があるため、Open Shortest Path First (OSPF) の隣接関係が Exstart または Exchange の状態のままになる。パケットが MTU 値が低いルータで受信されると、データベースは同期されません。
- 送信デバイスの値よりも低い MTU 値のデバイスでデータトラフィックが受信されると、データトラフィックが giant と見なされ廃棄される。
- 大量のパケットが廃棄されるときにスループットが低い。パス MTU ディスカバリの場合、大量のパケットが廃棄されたとしても TCP セッションは回復できますが、これはスループットに影響します。

デフォルト MTU

ここでは、`mtu` コマンドが設定されていない場合の、ルーテッド インターフェイスのデフォルトの MTU を分析します。

```
RP/0/RP0/CPU0:motorhead#sh run int gigabitEthernet 0/1/0/3
interface GigabitEthernet0/1/0/3
```

```
cdp
ipv4 address 10.0.1.1 255.255.255.0
ipv6 address 2001:db8::1/64
!
```

```
RP/0/RP0/CPU0:router#sh int gigabitEthernet 0/1/0/3 | i MTU
MTU 1514 bytes, BW 1000000 Kbit (Max: 1000000 Kbit)
RP/0/RP0/CPU0:router#show im database interface gigabitEthernet 0/1/0/3
```

View: OWN - Owner, L3P - Local 3rd Party, G3P - Global 3rd Party,
LDP - Local Data Plane, GDP - Global Data Plane, RED - Redundancy

Node 0/1/CPU0 (0x11)

```
Interface GigabitEthernet0/1/0/3, ifh 0x01180100 (up, 1514)
Interface flags: 0x000000000010059f (IFCONNECTOR|IFINDEX
|SUP_NAMED_SUB|BROADCAST|CONFIG|HW|VIS|DATA
|CONTROL)
Encapsulation: ether
Interface type: IFT_ETHERNET
Control parent: None
Data parent: None
Views: GDP|LDP|L3P|OWN
```

Protocol Caps (state, mtu)

```
-----
None ether (up, 1514)
arp arp (up, 1500)
clns clns (up, 1500)
ipv4 ipv4 (up, 1500)
mpls mpls (up, 1500)
ipv6 ipv6_preswitch (up, 1500)
ipv6 ipv6 (down, 1500)
ether_sock ether_sock (up, 1500)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:router#show ipv4 interface gigabitEthernet 0/1/0/3 | i MTU
MTU is 1514 (1500 is available to IP)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:router#show ipv6 interface gigabitEthernet 0/1/0/3 | i MTU
MTU is 1514 (1500 is available to IPv6)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:router#sh mpls interfaces gigabitEthernet 0/1/0/3 private location 0/1/CPU0
Interface IFH MTU
```

```
-----
Gi0/1/0/3 0x01180100 1500
```

```
RP/0/RP0/CPU0:router#
```

この例では、デフォルトの L2 インターフェイス MTU は 1514 バイトで、イーサネットヘッダーの 14 バイトが含まれています。ヘッダーの 14 バイトでは、宛先 MAC アドレスに 6 バイト、送信元 MAC アドレスに 6 バイト、タイプまたは長さに 2 バイトが割り当てられます。これには、プリアンプル、フレームデリミタ、フレームチェックシーケンス (FCS) の 4 バイト、およびフレーム間ギャップは含まれません。PPP または HDLC フレームの場合は、L2 ヘッダーの 4 バイトが割り当てられます。したがって、デフォルトのインターフェイス MTU は 1504 バイトとなります。

L3 プロトコルは、親 MTU のペイロードから MTU を継承します。1514 バイトの L2 MTU から L2 ヘッダーの 14 バイトを引くと、1500 バイトの L2 ペイロードとなります。これが L3 プロトコルの MTU になります。IPv4、IPv6、MPLS および Connectionless Network Service (CLNS) はこの 1500 バイトの MTU を継承します。結果として、Cisco IOS XR イーサネットインターフェイスは、デフォルトで 1500 バイトの L3 パケットを送信でき、これは Cisco IOS イーサネットインターフェイスのデフォルトと同じです。

非デフォルト MTU

ここでは、パケットの先頭にそれぞれが 4 バイトの MPLS タグが 2 つ先頭に付いた状態で 1500 バイトの IPv4 パケットを送信するために、1508 バイトの `mpls mtu` を設定する方法を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router#conf
RP/0/RP0/CPU0:router(config)#int gig 0/1/0/3
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)#mpls mtu 1508
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)#commit
RP/0/RP0/CPU0:Mar 12 00:36:49.807 CET: config[65856]: %MGBL-CONFIG-6-DB_COMMIT : Configuration
committed by user 'root'. Use 'show configuration commit changes 1000000124' to view the
changes.RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)#end
RP/0/RP0/CPU0:Mar 12 00:36:54.188 CET: config[65856]: %MGBL-SYS-5-CONFIG_I : Configured
from console by root on vty0 (10.55.144.149)
RP/0/RP0/CPU0:router#sh mpls interfaces gigabitEthernet 0/1/0/3 private location 0/1/CPU0
Interface IFH MTU
-----
Gi0/1/0/3 0x01180100 1500
RP/0/RP0/CPU0:router#show im database interface gigabitEthernet 0/1/0/3
```

View: OWN - Owner, L3P - Local 3rd Party, G3P - Global 3rd Party,
LDP - Local Data Plane, GDP - Global Data Plane, RED - Redundancy

Node 0/1/CPU0 (0x11)

```
Interface GigabitEthernet0/1/0/3, ifh 0x01180100 (up, 1514)
Interface flags: 0x0000000000010059f (IFCONNECTOR|IFINDEX
|SUP_NAMED_SUB|BROADCAST|CONFIG|HW|VIS|DATA
|CONTROL)
Encapsulation: ether
Interface type: IFT_ETHERNET
Control parent: None
Data parent: None
Views: GDP|LDP|L3P|OWN
```

Protocol Caps (state, mtu)

```
-----
None ether (up, 1514)
arp arp (up, 1500)
clns clns (up, 1500)
ipv4 ipv4 (up, 1500)
mpls mpls (up, 1500)
ipv6 ipv6_preswitch (up, 1500)
ipv6 ipv6 (down, 1500)
ether_sock ether_sock (up, 1500)
```

RP/0/RP0/CPU0:router#

mpls mtu 1508 コマンドはコミットされますが、MPLS に **show** コマンドで 1500 バイトの MTU があるため、適用はされません。これは、L3 子プロトコルは親の L2 インターフェイスのペイロードよりも大きい MTU を持つことができないためです。

1500 バイトの IP パケットの先頭に 2 つのラベルを割り当てるには、次の手順を実行する必要があります。

- すべての子プロトコル (MPLS を含む) が 1508 バイトの MTU を継承できるように、1522 バイトの L2 インターフェイス MTU を設定します (1522 - 14 = 1508)。
- MPLS だけが 1500 バイトを超えることを許可されるように、L3 プロトコルの MTU を 1500

バイトに減らします。

```
RP/0/RP0/CPU0:router#sh run int gig 0/1/0/3
interface GigabitEthernet0/1/0/3
cdp
mtu 1522
ipv4 mtu 1500
ipv4 address 10.0.1.1 255.255.255.0
ipv6 mtu 1500
ipv6 address 2001:db8::1/64
!
```

```
RP/0/RP0/CPU0:router#show im database interface gigabitEthernet 0/1/0/3
```

View: OWN - Owner, L3P - Local 3rd Party, G3P - Global 3rd Party,
LDP - Local Data Plane, GDP - Global Data Plane, RED - Redundancy

Node 0/1/CPU0 (0x11)

```
Interface GigabitEthernet0/1/0/3, ifh 0x01180100 (up, 1522)
Interface flags: 0x000000000010059f (IFCONNECTOR|IFINDEX
|SUP_NAMED_SUB|BROADCAST|CONFIG|HW|VIS|DATA
|CONTROL)
Encapsulation: ether
Interface type: IFT_ETHERNET
Control parent: None
Data parent: None
Views: GDP|LDP|L3P|OWN
```

Protocol Caps (state, mtu)

```
-----
None ether (up, 1522)
arp arp (up, 1508)
clns clns (up, 1508)
ipv4 ipv4 (up, 1500)
mpls mpls (up, 1508)
ipv6 ipv6_preswitch (up, 1508)
ipv6 ipv6 (down, 1500)
ether_sock ether_sock (up, 1508)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:router#
```

この設定によって、1500 バイトの IPv4 および IPv6 パケットと 1508 バイトの MPLS パケットを送信することができます (先頭に 2 つのタグが付いた 1500 バイトのパケット)。

ルーテッド L3 サブインターフェイス

次の特性がルーテッド L3 サブインターフェイスに適用されます。

ルーテッド サブインターフェイスの MTU は、親のメイン インターフェイスの MTU を継承します。サブインターフェイスで設定されている各 VLAN タグに 4 バイトを追加します。したがって、dot1q サブインターフェイスの場合は 4 バイト、IEEE 802.1Q トンネリング (QinQ) の場合は 8 バイトあります。

その結果、同じサイズの L3 パケットはメイン インターフェイスとサブインターフェイスの両方で転送できます。

mtu コマンドは、サブインターフェイスで設定できますが、メイン インターフェイスから継承された MTU と等しいかまたは低い場合にのみ適用されます。

これは、メイン インターフェイスの MTU が 2000 バイトの場合の例です。

```
RP/0/RP0/CPU0:router#sh run int gig 0/1/0/3
interface GigabitEthernet0/1/0/3
cdp
mtu 2000
!
```

```
RP/0/RP0/CPU0:router#sh run int gig 0/1/0/3.100
interface GigabitEthernet0/1/0/3.100
ipv4 address 10.0.2.1 255.255.255.0
ipv6 address 2001:db9:0:1::1/64
dot1q vlan 100
!
```

```
RP/0/RP0/CPU0:router#sh int gig 0/1/0/3.100 | i MTU
MTU 2004 bytes, BW 1000000 Kbit (Max: 1000000 Kbit)
RP/0/RP0/CPU0:router#show im database interface gigabitEthernet 0/1/0/3.100
```

View: OWN - Owner, L3P - Local 3rd Party, G3P - Global 3rd Party,
LDP - Local Data Plane, GDP - Global Data Plane, RED - Redundancy

Node 0/1/CPU0 (0x11)

```
Interface GigabitEthernet0/1/0/3.100, ifh 0x01180260 (up, 2004)
Interface flags: 0x0000000000000597 (IFINDEX|SUP_NAMED_SUB
|BROADCAST|CONFIG|VIS|DATA|CONTROL)
Encapsulation: dot1q
Interface type: IFT_VLAN_SUBIF
Control parent: GigabitEthernet0/1/0/3
Data parent: GigabitEthernet0/1/0/3
Views: GDP|LDP|L3P|OWN
```

Protocol Caps (state, mtu)

```
-----
None vlan_jump (up, 2004)
None dot1q (up, 2004)
arp arp (up, 1986)
ipv4 ipv4 (up, 1986)
ipv6 ipv6_preswitch (up, 1986)
ipv6 ipv6 (down, 1986)
```

RP/0/RP0/CPU0:router#

show コマンドでは、サブインターフェイスの MTU は 2004 です。サブインターフェイスで設定された dot1q タグが 1 つあるため、4 バイトをメイン インターフェイスの MTU に追加します。

ただし、IPv4 および IPv6 パケットの MTU は、メイン インターフェイスの MTU と同じままです (1986)。これは、L3 プロトコルの MTU が次のように計算されるためです。2004 - 14 - 4 = 1986

mtu コマンドは、サブインターフェイスに設定できますが、設定された MTU はメイン インターフェイスから継承された MTU と等しいかまたは低い場合にのみ適用されます (メイン インターフェイスの MTU より 4 バイト大きい)。

継承された MTU よりも大きいサブインターフェイスの MTU の場合は、次に示すように適用されません。

```
RP/0/RP0/CPU0:router#sh int gig 0/1/0/3.100 | i MTU
MTU 2004 bytes, BW 1000000 Kbit (Max: 1000000 Kbit)
RP/0/RP0/CPU0:router#conf
RP/0/RP0/CPU0:router(config)#int gig 0/1/0/3.100
RP/0/RP0/CPU0:router(config-subif)#mtu 2100
RP/0/RP0/CPU0:router(config-subif)#commit
RP/0/RP0/CPU0:router(config-subif)#end
RP/0/RP0/CPU0:router#sh int gig 0/1/0/3.100 | i MTU
MTU 2004 bytes, BW 1000000 Kbit (Max: 1000000 Kbit)
RP/0/RP0/CPU0:router#
```

そのため、メイン インターフェイスから継承された MTU 値を低くするためには `mtu` コマンドのみを使用できます。

同様に、サブインターフェイス L2 のペイロードから継承された L3 MTU の値を小さくするために、L3 プロトコル (IPv4、IPv6、MPLS) の MTU コマンドを使用することもできます。L3 プロトコル MTU は、L2 MTU のペイロードに収まらない値に設定された場合は効力を生じません。

L2VPN L2 インターフェイス

擬似回線 (PW) の両側の接続回路の MTU が同じでない場合、Label Distribution Protocol (LDP) によって PW が起動されないため、L2VPN の MTU が重要になります。

次に、MTU の不一致があった場合に L2VPN PW が起動されない様子を示した `show` コマンドを示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router1#sh l2vpn xconnect
Legend: ST = State, UP = Up, DN = Down, AD = Admin Down, UR = Unresolved,
SB = Standby, SR = Standby Ready, (PP) = Partially Programmed

XConnect Segment 1 Segment 2
Group Name ST Description ST Description ST
-----
mtu mtu DN Gi0/0/0/2.201 UP 10.0.0.12 201 DN
-----
RP/0/RP0/CPU0:router1#sh l2vpn xconnect detail

Group mtu, XC mtu, state is down; Interworking none
AC: GigabitEthernet0/0/0/2.201, state is up
Type VLAN; Num Ranges: 1
VLAN ranges: [201, 201]
MTU 2000; XC ID 0x1080001; interworking none
Statistics:
packets: received 0, sent 0
bytes: received 0, sent 0
drops: illegal VLAN 0, illegal length 0
PW: neighbor 10.0.0.12, PW ID 201, state is down ( local ready )
PW class mtu-class, XC ID 0xffffe0001
Encapsulation MPLS, protocol LDP
Source address 10.0.0.2
PW type Ethernet, control word disabled, interworking none
PW backup disable delay 0 sec
Sequencing not set

PW Status TLV in use
MPLS Local Remote
-----
Label 16046 16046
```



```
Group ID 0x1080100 0x6000180
Interface GigabitEthernet0/0/0/2.201 GigabitEthernet0/1/0/3.201
MTU 2000 1986
Control word disabled disabled
PW type Ethernet Ethernet
VCCV CV type 0x2 0x2
(LSP ping verification) (LSP ping verification)
VCCV CC type 0x6 0x6
(router alert label) (router alert label)
(TTL expiry) (TTL expiry)
```

```
-----
Incoming Status (PW Status TLV):
Status code: 0x0 (Up) in Notification message
Outgoing Status (PW Status TLV):
Status code: 0x0 (Up) in Notification message
MIB cpwVcIndex: 4294836225
Create time: 18/04/2013 16:20:35 (00:00:37 ago)
Last time status changed: 18/04/2013 16:20:43 (00:00:29 ago)
Error: MTU mismatched
```

```
Statistics:
packets: received 0, sent 0
bytes: received 0, sent 0
RP/0/RP0/CPU0:router1#
RP/0/RP0/CPU0:router1#sh int GigabitEthernet0/0/0/2 | i MTU
MTU 2014 bytes, BW 1000000 Kbit (Max: 1000000 Kbit)
RP/0/RP0/CPU0:router1#sh int GigabitEthernet0/0/0/2.201 | i MTU
MTU 2018 bytes, BW 1000000 Kbit (Max: 1000000 Kbit)
RP/0/RP0/CPU0:router1#
```

この例では、PW を起動させるために、両側の MPLS L2VPN プロバイダー エッジ (PE) が同じ MTU 値を送出する必要がある点に注意してください。

MPLS LDP で送出された MTU には L2 オーバーヘッドが含まれていません。これは、L2 オーバーヘッドを含む XR インターフェイスの config および show コマンドとは異なります。サブインターフェイスの MTU は 2018 バイトですが (2014 バイトのメイン インターフェイスから継承されるため)、LDP は 2000 バイトの MTU を送出しました。したがって、L2 ヘッダーから 18 バイト (イーサネット ヘッダーの 14 バイト + 1 つの dot1q タグの 4 バイト) を引きます。

MTU の不一致を修正するには、各デバイスが接続回線の MTU 値をどのように計算するかを理解することが重要です。これは、ベンダー、プラットフォーム、ソフトウェア バージョン、設定などのパラメータに依存します。

EVC (ASR9000)

Cisco ASR 9000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータは、EVC インフラストラクチャ モードを使用します。これにより、L2VPN L2 インターフェイスおよびサブインターフェイスで柔軟な VLAN の一致が可能になります。

EVC L2VPN L2 インターフェイスには次の特性があります。

- **encapsulation** コマンドで 1 つ以上のタグの設定ができます。
- デフォルトでは、**encapsulation** コマンドだけで、タグは保持され PW に伝送されます。このため、デフォルトではタグを削除する必要はありません (非 EVC プラットフォームでは行う必要があります)。
- 着信タグをポップしたり、着信フレームの先頭にいくつかの追加タグをプッシュするときは、**rewrite** コマンドを使用します。

サブインターフェイス MTU を計算するには、メイン インターフェイス MTU (デフォルトまたはメイン インターフェイスで手動で設定されたもの) を取得して、**encapsulation** コマンドで設定された各 VLAN タグに対し 4 バイトを追加します。「[特定の EFP Encapsulation コマンド](#)」を参照してください。

サブインターフェイスに **mtu** コマンドがある場合は、計算された MTU より小さい場合にのみ有効です。**rewrite** コマンドは、サブインターフェイス MTU に影響しません。

次に例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router2#sh run int gig 0/1/0/3
interface GigabitEthernet0/1/0/3
 cdp
 mtu 2014
 negotiation auto
!
```

```
RP/0/RSP0/CPU0:router2#sh run int gig 0/1/0/3.201
interface GigabitEthernet0/1/0/3.201 l2transport
 encapsulation dot1q 201 second-dot1q 10
 rewrite ingress tag pop 2 symmetric
!
```

```
RP/0/RSP0/CPU0:router2#
RP/0/RSP0/CPU0:router2#sh int gig 0/1/0/3.201
GigabitEthernet0/1/0/3.201 is up, line protocol is up
Interface state transitions: 1
Hardware is VLAN sub-interface(s), address is 0024.986c.63f3
Layer 2 Transport Mode
MTU 2022 bytes, BW 1000000 Kbit (Max: 1000000 Kbit)
```

この例では、メイン インターフェイスの MTU は 2014 バイトです。サブインターフェイスで設定されるタグが 2 つあるため、8 バイトを追加します。

サブインターフェイスで **mtu 2026** バイトを設定する場合、メイン インターフェイス (2022 バイト) から継承したサブインターフェイス MTU よりも大きいため、それは適用されません。このため、設定できるのは 2022 バイトよりも低いサブインターフェイス MTU だけです。

このサブインターフェイス MTU に基づいて、ネイバーに送出される MPLS LDP ペイロードの MTU を計算し、リモート L2VPN PE によって計算されたものと同じであることを確認します。これで **rewrite** コマンドを実行できます。

MPLS LDP ペイロードの MTU を計算するには、サブインターフェイスの MTU を取得して、次の手順を実行します。

1. イーサネット ヘッダーの 14 バイトを引きます。
2. サブインターフェイスで設定した **rewrite** コマンドでポップするタグそれぞれに対し 4 バイトを引きます。
3. サブインターフェイスで設定した **rewrite** コマンドでプッシュするタグそれぞれに対し 4 バイトを追加します。

これは、gig 0/1/0/3.201 での QinQ 設定と同じ例です。

```
interface GigabitEthernet0/1/0/3
 cdp
 mtu 2014
```

```
negotiation auto
!  
interface GigabitEthernet0/1/0/3.201 l2transport  
encapsulation dot1q 201 second-dot1q 10  
rewrite ingress tag pop 2 symmetric  
!
```

```
RP/0/RSP0/CPU0:router2#sh int gig 0/1/0/3.201  
GigabitEthernet0/1/0/3.201 is up, line protocol is up  
Interface state transitions: 1  
Hardware is VLAN sub-interface(s), address is 0024.986c.63f3  
Layer 2 Transport Mode  
MTU 2022 bytes, BW 1000000 Kbit (Max: 1000000 Kbit)
```

次は、MPLS LDP ペイロードの MTU の計算です。

1. サブインターフェイス MTU の MTU 値 : 2022 バイト
 2. イーサネット ヘッダーの 14 バイトを引きます : $2022 - 14 = 2008$ バイト
 3. **rewrite** コマンドでポップするタグそれぞれに対し 4 バイトを引きます。 $2008 - 4 * 2 = 2000$
- リモート側が 2000 バイトの MPLS LDP ペイロードをアドバタイズすることを確認します。そうでない場合は、ローカルまたはリモートの接続回線 (AC) の MTU サイズを一致するように調整します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router2#sh l2vpn xconnect det
```

```
Group mtu, XC mtu, state is up; Interworking none  
AC: GigabitEthernet0/1/0/3.201, state is up  
Type VLAN; Num Ranges: 1  
Outer Tag: 201  
VLAN ranges: [10, 10]  
MTU 2000; XC ID 0x1880003; interworking none
```

特定のイーサネット フロー ポイント (EFP) Encapsulation コマンド

これらのカプセル化はゼロ タグの一致としてカウントされるため、これによってサブインターフェイス MTU は増えません。

- **encapsulation untagged**
- **encapsulation default**

これらのカプセル化の修飾子は、サブインターフェイス MTU を計算するために必要なタグの数に影響しません。

- native
- payload-ethertype
- exact
- cos
- ingress source-mac または ingress destination-mac

encapsulation [dot1q|dot1ad] priority-tagged は単一のタグの一致としてカウントされます。

最深部のタグ一致として使用される「any」キーワードによってサブインターフェイス MTU は増えません。

- **encapsulation dot1q any** によってサブインターフェイス MTU は増えません。
- **encapsulation dot1ad 10 dot1q any** は 1 つのタグと見なされます。これによってサブインタ

ーフェイス MTU が 4 バイト増加します。

- **encapsulation dot1ad any dot1q 7** は 2 つのタグと見なされます。これによってサブインターフェイス MTU が 8 バイト増加します。

VLAN ID の範囲によってサブインターフェイス MTU が増加します。

- **encapsulation dot1q 10-100** は 1 つのタグと見なされます。これによってサブインターフェイス MTU が 4 バイト増加します。

分離性一致である EFP のカプセル化 MTU オーバーヘッドは最大の要素の MTU として扱われ
ます。

- **encapsulation dot1q 10-100, untagged** は、範囲 10 ~ 100 が最大要素であるため、1 つの
タグとして見なされます。

非 EVC (XR 12000 および CRS)

Cisco XR 12000 シリーズ ルータや Carrier Routing System (CRS) などのルータでは、サブイン
ターフェイスでの VLAN 一致に従来の設定を使用します。これらの特性は、CRS および EVC モ
デルに追随しない XR 12000 ルータの L2VPN L2 インターフェイスに適用されます。

- 非 EVC プラットフォームでは、着信 dot1q または dot1ad タグは L2 トランSPORT サブイ
ンターフェイスで受信されると自動的に削除されます。
- 送出する MPLS LDP のペイロード サイズを計算するときは、**show interface** コマンドで表示
されるように、サブインターフェイスの MTU からタグのサイズを引きます。
- これはルーテッド サブインターフェイスの場合と同様です。
- サブインターフェイスはメイン インターフェイスから MTU を継承します。サブインターフ
ェイスの MTU を計算するために、メイン インターフェイスの MTU に各タグの 4 バイトを
追加します。たとえば、QinQ サブインターフェイスに 2 つの dot1q タグがある場合、サブ
インターフェイスの MTU はデフォルトでメイン インターフェイスの MTU よりも 8 バイト
大きくなります。
- また、サブインターフェイスで **mtu** コマンドを使用できますが、そのコマンドはメイン イン
ターフェイスの MTU から継承したサブインターフェイスの MTU を減らすためだけに使用さ
れます。

これらの特性を説明したいいくつかの例を次に示します。

次の例は、非 EVC サブインターフェイスの設定方法を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router1#sh run int gigabitEthernet 0/0/0/2.201
interface GigabitEthernet0/0/0/2.201 l2transport
dot1q vlan 201
!
```

```
RP/0/RP0/CPU0:router1#
```

非 EVC プラットフォームは、EVC プラットフォーム (ASR9000) の **encapsulation** および
rewrite コマンドの代わりに、**dot1q vlan** または **dot1ad vlan** コマンドを使用します。

メイン インターフェイスまたはサブインターフェイスで MTU を明示的に設定しない場合は、
1500 バイトの L3 パケットをデフォルトで受信することができます。

```
RP/0/RP0/CPU0:router1#sh int gig 0/0/0/2 | i MTU
```

```
MTU 1514 bytes, BW 1000000 Kbit (Max: 1000000 Kbit)
RP/0/RP0/CPU0:router1#sh int gig 0/0/0/2.201 | i MTU
MTU 1518 bytes, BW 1000000 Kbit (Max: 1000000 Kbit)
RP/0/RP0/CPU0:router1#
```

サブインターフェイス MTU はメイン インターフェイス MTU から計算されます (1514 バイト)。各 dot1q タグに対して 4 バイトを追加します。dot1q vlan 201 コマンドでサブインターフェイスに設定されたタグが 1 つあるため、1514 バイトに 4 バイトを追加し、1518 バイトの MTU になります。

PW をオーバーすると、イーサネット ヘッダーの 14 バイトがカウントされず、1 つの dot1q タグが非 EVC プラットフォームによって自動的にポップされるため、MPLS LDP の対応するペイロード MTU は 1500 バイトです。

```
RP/0/RP0/CPU0:router1#sh l2vpn xconnect detail
```

```
Group mtu, XC mtu, state is down; Interworking none
AC: GigabitEthernet0/0/0/2.201, state is up
Type VLAN; Num Ranges: 1
VLAN ranges: [201, 201]
MTU 1500; XC ID 0x1080001; interworking none
```

メイン インターフェイスの MTU を 2014 バイトに増やすと、サブインターフェイスの MTU はそれに応じて増加します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router1#sh run int gig 0/0/0/2
interface GigabitEthernet0/0/0/2
description static lab connection to head 4/0/0 - dont change
cdp
mtu 2014
ipv4 address 10.0.100.1 255.255.255.252
load-interval 30
!
```

```
RP/0/RP0/CPU0:router1#sh run int gig 0/0/0/2.201
interface GigabitEthernet0/0/0/2.201 l2transport
dot1q vlan 201
!
```

```
RP/0/RP0/CPU0:router1#sh int gig 0/0/0/2 | i MTU
MTU 2014 bytes, BW 1000000 Kbit (Max: 1000000 Kbit)
RP/0/RP0/CPU0:router1#sh int gig 0/0/0/2.201 | i MTU
MTU 2018 bytes, BW 1000000 Kbit (Max: 1000000 Kbit)
RP/0/RP0/CPU0:router1#sh l2vpn xconnect detail
```

```
Group mtu, XC mtu, state is down; Interworking none
AC: GigabitEthernet0/0/0/2.201, state is up
Type VLAN; Num Ranges: 1
VLAN ranges: [201, 201]
MTU 2000; XC ID 0x1080001; interworking none
```

したがって、MPLS LDP の MTU を計算するには、イーサネット ヘッダーの 14 バイトを引き、サブインターフェイスで設定した各タグに対して 4 バイトを追加します。

自動イーサネット インターフェイス ドライバ MTU および MRU の設定

イーサネット インターフェイスでは、インターフェイス ドライバはインターフェイス MTU の設定に基づいた MTU および MRU で設定されます。

イーサネット インターフェイス ドライバで設定された MTU および MRU は、**show controller <interface> all** コマンドを使用して表示できます。

Cisco IOS XR リリース 5.1.1 よりも前のリリースでは、イーサネット インターフェイス ドライバの MTU および MRU は、インターフェイスの Cisco IOS XR MTU 設定に基づいて自動的に設定されました。

イーサネット ドライバで設定された MTU/MRU は、設定された MTU と 2 つのイーサネット タグおよび CRC フィールドの追加用の 12 バイトに基づいているだけでした。12 バイトは、サブインターフェイスで設定された VLAN タグの有無にかかわらず、イーサネット ドライバ MTU/MRU に追加されました。

Cisco IOS XR リリース 5.1.1 よりも前のすべての Cisco IOS XR バージョンと ASR 9000 インターフェイスでの 1514 バイトのデフォルト MTU の例を次に示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2#show interface Gi0/2/0/0
GigabitEthernet0/2/0/0 is up, line protocol is up
  Interface state transitions: 3
  Hardware is GigabitEthernet, address is 18ef.63e2.0598 (bia 18ef.63e2.0598)
  Description: Static_Connections_to_ME3400-1_Gi_0_2 - Do Not Change
  Internet address is Unknown
  MTU 1514 bytes, BW 1000000 Kbit (Max: 1000000 Kbit)
<snip>
```

MTU/MRU programmed on ethernet interface driver is 1514 + 12 bytes

```
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2#show controllers Gi0/2/0/0 all
```

```
<snip>
Operational values:
  Speed: 1Gbps
  Duplex: Full Duplex
  Flowcontrol: None
  Loopback: None (or external)
  MTU: 1526
  MRU: 1526
  Inter-packet gap: standard (12)
<snip>
```

Cisco IOS XR リリース 5.1.1 以降では、イーサネット インターフェイス ドライバで使用される MTU および MRU は変更され、今はサブインターフェイスのいずれかで設定されている VLAN タグの数に基づいています。

いずれのサブインターフェイスでも VLAN タグが設定されていない場合は、ドライバ MTU/MRU はインターフェイスで設定された MTU + 4 CRC バイトと等しくなります (たとえば、1514 + 4 = 1518 バイト)。

いずれかのサブインターフェイスで VLAN タグが 1 つ設定されている場合は、ドライバ MTU/MRU は設定された MTU + 8 バイト (1 タグ + CRC) と等しくなります (たとえば、1514 + 8 = 1522 バイト)。

いずれかのサブインターフェイスで VLAN タグが 2 つ設定されている場合は、ドライバ MTU/MRU は設定された MTU + 12 バイト (2 タグ + CRC) と等しくなります (たとえば、1514

+ 12 = 1526 バイト)。

any キーワードの QinQ が second-dot1q タグに設定されている場合は、ドライバ MTU/MRU は設定された MTU + 8 バイト (1 タグ + CRC) と等しくなります (たとえば、1514 + 8 = 1522 バイト)。

次の例は、ASR 9000 での Cisco IOS XR リリース 5.1.1 以降の動作を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2#sh run int ten0/1/0/0
interface TenGigE0/1/0/0
  cdp
```

```
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2#show controllers ten0/1/0/0 all
```

```
<snip>
Operational values:
  Speed: 10Gbps
  Duplex: Full Duplex
  Flowcontrol: None
  Loopback: Internal
  MTU: 1518
  MRU: 1518
  Inter-packet gap: standard (12)
<snip>
```

```
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2#config
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2(config-if)#int ten0/1/0/0.1
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2(config-subif)#encapsulation dot1q 1
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2(config-subif)#commit
```

```
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2#show controllers ten0/1/0/0 all
```

```
<snip>
Operational values:
  Speed: 10Gbps
  Duplex: Full Duplex
  Flowcontrol: None
  Loopback: Internal
  MTU: 1522
  MRU: 1522
  Inter-packet gap: standard (12)
<snip>
```

```
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2#config
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2(config)#int ten0/1/0/0.2
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2(config-subif)#encapsulation dot1q 10 second-dot1q 20
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2(config-subif)#commit
```

```
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2#show controllers ten0/1/0/0 all
```

```
<snip>
Operational values:
  Speed: 10Gbps
  Duplex: Full Duplex
  Flowcontrol: None
  Loopback: Internal
  MTU: 1526
  MRU: 1526
  Inter-packet gap: standard (12)
<snip>
```

```
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2#config
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2(config)#int ten0/2/0/0
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2(config)#cdp
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2(config)#int ten0/2/0/0.1 l2transport
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2(config-subif)#encapsulation dot1q 10 second-dot1q any
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2(config-subif)#commit
```

```
RP/0/RSP0/CPU0:ASR2#show controllers ten0/1/0/0 all
```

<snip>

Operational values:

```
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: Internal
MTU: 1522
MRU: 1522
```

```
Inter-packet gap: standard (12)
```

<snip>

多くの場合、リリース 5.1.1 以降のこの動作の変更は、インターフェイスの MTU の設定変更を必要としません。

この動作変更は、サブインターフェイスに単一の VLAN タグが設定された場合に問題を引き起こす可能性があります。2つの VLAN タグを持つパケットは受信します。その状況では、受信されたパケットはイーサネット インターフェイス ドライバの MRU を超えることができます。その条件を取り除くためには、インターフェイス MTU を 4 バイト増やすか、または 2つの VLAN タグをサブインターフェイスに設定します。

リリース 5.1.1 動作における自動イーサネット インターフェイス ドライバ MTU および MRU の設定は、CRS および ASR 9000 ルータの場合と同じです。しかし、リリース 5.1.1 が稼働する CRS ルータでは、**show controller** 出力で表示される MTU および MRU 値に 4 バイトの CRC が含まれていません。報告される挙動は CRS と ASR9000 とでは異なります。

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS#sh run int ten0/4/0/0
```

```
Mon May 19 08:49:26.109 UTC
```

```
interface TenGigE0/4/0/0
```

<snip>

Operational values:

```
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1514
MRU: 1514
Inter-packet gap: standard (12)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config)#int ten0/4/0/0.1
```

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#encapsulation dot1q 1
```

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#commit
```

Operational values:

```
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1518
MRU: 1518
Inter-packet gap: standard (12)
```


ASR 9000 で MTU および MRU が show controller 出力に表示される方法は、4 バイトの CRC が表示される MTU/MRU 値に含まれないようにするために将来的に変更される予定です。この将来的な変更は、Cisco bug ID [CSCuo93379](#) で追跡できます。

リリース 5.1.1 よりも前のリリースからリリース 5.1.1 以降にアップグレードする際の設定の変換

- デフォルト MTU :

リリース 5.1.1 より前のリリースで、サブインターフェイスと mtu コマンドがないメイン インターフェイスがあった場合 :

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS#sh run int ten0/4/0/0
Mon May 19 08:49:26.109 UTC
interface TenGigE0/4/0/0
```

<snip>

```
Operational values:
  Speed: 10Gbps
  Duplex: Full Duplex
  Flowcontrol: None
  Loopback: None (or external)
  MTU: 1514
  MRU: 1514
  Inter-packet gap: standard (12)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config)#int ten0/4/0/0.1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#encapsulation dot1q 1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#commit
```

```
Operational values:
  Speed: 10Gbps
  Duplex: Full Duplex
  Flowcontrol: None
  Loopback: None (or external)
  MTU: 1518
  MRU: 1518
  Inter-packet gap: standard (12)
```

また、このインターフェイスは dot1q または QinQ フレームを伝送するため、MTU はリリース 5.1.1 以降では「mtu 1522」に手動で設定する必要があります。

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS#sh run int ten0/4/0/0
Mon May 19 08:49:26.109 UTC
interface TenGigE0/4/0/0
```

<snip>

```
Operational values:
  Speed: 10Gbps
  Duplex: Full Duplex
  Flowcontrol: None
  Loopback: None (or external)
  MTU: 1514
  MRU: 1514
  Inter-packet gap: standard (12)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config)#int ten0/4/0/0.1
```

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#encapsulation dot1q 1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#commit
```

Operational values:

```
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1518
MRU: 1518
Inter-packet gap: standard (12)
```

この設定によって、QinQ フレームを以前のリリースと同様に伝送できるようになります。伝送するのが dot1q のみで QinQ は伝送しない場合は、MTU 値を 1518 に設定できます。

dot1q または QinQ 用に設定され、「any」キーワードがあり、QinQ がないサブインターフェイスがあった場合、2 つの明示的なタグが付いたサブインターフェイスがリリース 5.1.1 よりも前のリリースで設定されました。

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS#sh run int ten0/4/0/0
Mon May 19 08:49:26.109 UTC
interface TenGigE0/4/0/0
```

<snip>

Operational values:

```
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1514
MRU: 1514
Inter-packet gap: standard (12)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config)#int ten0/4/0/0.1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#encapsulation dot1q 1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#commit
```

Operational values:

```
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1518
MRU: 1518
Inter-packet gap: standard (12)
```

リリース 5.1.1 以降のこの設定では、1 つのタグが付いたフレームの伝送のみが許可されるので、QinQ フレームが伝送される場合は MTU を手動で 4 バイト増やす必要があります。

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS#sh run int ten0/4/0/0
Mon May 19 08:49:26.109 UTC
interface TenGigE0/4/0/0
```

<snip>

Operational values:

```
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1514
MRU: 1514
```

```
Inter-packet gap: standard (12)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config)#int ten0/4/0/0.1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#encapsulation dot1q 1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#commit
```

```
Operational values:
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1518
MRU: 1518
Inter-packet gap: standard (12)
```

2つの明示的なタグが付いた QinQ サブインターフェイス (「any」キーワードを使用しない) が設定されている場合、リリース 5.1.1 以降にアップグレードするときに MTU 設定を変更する必要はありません。

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS#sh run int ten0/4/0/0
Mon May 19 08:49:26.109 UTC
interface TenGigE0/4/0/0
```

```
<snip>
Operational values:
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1514
MRU: 1514
Inter-packet gap: standard (12)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config)#int ten0/4/0/0.1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#encapsulation dot1q 1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#commit
```

```
Operational values:
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1518
MRU: 1518
Inter-packet gap: standard (12)
```

L2 トランスポート サブインターフェイスがなく L3 ルーテッド インターフェイスのみがある場合、MTU 設定が両側で一致し、伝送される MTU よりも大きいフレームがないことが予想されます。リリース 5.1.1 以降にアップグレードするときに MTU 設定を更新する必要はありません。

- リリース 5.1.1 より前のリリースにおけるデフォルト以外の MTU :

同様に、デフォルト以外の MTU がリリース 5.1.1 より前のリリースで設定されていて、サブインターフェイスが設定されておらず dot1q または QinQ フレームを伝送する必要がある場合は、リリース 5.1.1 以降にアップグレードするときに設定されている MTU 値を 8 バイト増やす必要があります。

リリース 5.1.1 よりも前のリリース :

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS#sh run int ten0/4/0/0
```

```
Mon May 19 08:49:26.109 UTC
interface TenGigE0/4/0/0
```

```
<snip>
```

```
Operational values:
```

```
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1514
MRU: 1514
Inter-packet gap: standard (12)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config)#int ten0/4/0/0.1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#encapsulation dot1q 1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#commit
```

```
Operational values:
```

```
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1518
MRU: 1518
Inter-packet gap: standard (12)
```

リリース 5.1.1 以降にアップグレードするときに、MTU を手動で 8 バイト増やす必要があります

。

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS#sh run int ten0/4/0/0
Mon May 19 08:49:26.109 UTC
interface TenGigE0/4/0/0
```

```
<snip>
```

```
Operational values:
```

```
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1514
MRU: 1514
Inter-packet gap: standard (12)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config)#int ten0/4/0/0.1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#encapsulation dot1q 1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#commit
```

```
Operational values:
```

```
Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1518
MRU: 1518
Inter-packet gap: standard (12)
```

また、dot1q サブインターフェイスがあり QinQ サブインターフェイスがない場合、または second-dot1q タグに any キーワードが使用された QinQ サブインターフェイスがある場合は、設定された MTU 値を 4 バイト増やす必要があります。

リリース 5.1.1 よりも前のリリース :

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS#sh run int ten0/4/0/0
Mon May 19 08:49:26.109 UTC
interface TenGigE0/4/0/0
```

<snip>

```
Operational values:
  Speed: 10Gbps
  Duplex: Full Duplex
  Flowcontrol: None
  Loopback: None (or external)
  MTU: 1514
  MRU: 1514
  Inter-packet gap: standard (12)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config)#int ten0/4/0/0.1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#encapsulation dot1q 1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#commit
```

```
Operational values:
  Speed: 10Gbps
  Duplex: Full Duplex
  Flowcontrol: None
  Loopback: None (or external)
  MTU: 1518
  MRU: 1518
  Inter-packet gap: standard (12)
```

リリース 5.1.1 以降 :

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS#sh run int ten0/4/0/0
Mon May 19 08:49:26.109 UTC
interface TenGigE0/4/0/0
```

<snip>

```
Operational values:
  Speed: 10Gbps
  Duplex: Full Duplex
  Flowcontrol: None
  Loopback: None (or external)
  MTU: 1514
  MRU: 1514
  Inter-packet gap: standard (12)
```

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config)#int ten0/4/0/0.1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#encapsulation dot1q 1
RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#commit
```

```
Operational values:
  Speed: 10Gbps
  Duplex: Full Duplex
  Flowcontrol: None
  Loopback: None (or external)
  MTU: 1518
  MRU: 1518
  Inter-packet gap: standard (12)
```

2つの明示的なタグが付いた QinQ サブインターフェイス (「any」 キーワードを使用しない) が設定されている場合、リリース 5.1.1 以降にアップグレードするときに MTU 設定を変更する必要はありません。

```
RP/0/RP0/CPU0:CRS#sh run int ten0/4/0/0
```

Mon May 19 08:49:26.109 UTC
interface TenGigE0/4/0/0

<snip>

Operational values:

Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1514
MRU: 1514
Inter-packet gap: standard (12)

RP/0/RP0/CPU0:CRS(config)#**int ten0/4/0/0.1**

RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#**encapsulation dot1q 1**

RP/0/RP0/CPU0:CRS(config-subif)#**commit**

Operational values:

Speed: 10Gbps
Duplex: Full Duplex
Flowcontrol: None
Loopback: None (or external)
MTU: 1518
MRU: 1518
Inter-packet gap: standard (12)

L2 トランスポート サブインターフェイスがなく L3 ルーテッド インターフェイスのみがある場合、MTU 設定が両側で一致し、伝送される MTU よりも大きいフレームがないことが予想されます。リリース 5.1.1 以降にアップグレードするときに MTU 設定を更新する必要はありません。